自己評価　　令和４年度　赤坂台こども園

テーマ「よく見て、よく考えて、なんでもする子」

自然と友だち

０・１才の目標・ねらい

- 野外で過ごすことを楽しむ
- 気候の変化や季節の移り変わりを感じる
- 運動機能の発達を促す

ふりかえり

- 園生活に不安で泣き出す子どもはいたが、保育者が抱っこしたり話しかけたりスキンシップを取ることで安心して過ごせるようにした。泣いていても戸外に出ると見えるものを指さしたり車など動く物を見て泣き止み、保育者が歌を歌うと体を揺らす子どももいた。吹く風を体で感じながら気持ちよく過ごしたり、聞こえる音に反応するなど五感を使って自然を感じた。月齢差があるのでしっかり子どもを把握し、思いに寄り添いながら子どもに合った関わりを行うようにした。

- 感触遊びでは砂場で砂の感触を楽しむだけではなく、室内では小麦粉粘土遊びも楽しんだ。触ることに抵抗がある子どももおり、他の子どもの遊ぶ様子を見たり少しずつ触るなどして遊び方を工夫した。遊びに慣れるまで保育者と一緒にし、感触に慣れると自ら遊び出し楽しむようになった。

- 戸外では保育者が虫を見つけて子どもに声をかける、そのうちに自分で虫を見つけ動く様子を目で追う。保育者も一緒に見ることでより一層楽しんで観察していた。子どもの興味もどんどん広がり、どんどん気になる方へ歩き出す。しかし探索活動に危険ばかりを心配しその危険を未然に防ぐことばかりを考え、子どもの動きを止めてしまうことがあった。動きを止めるのではなく子どもの気持ちを切り替えられるような言葉がけをするべきだった。

- 緩い傾斜を使って上がったり下りたりを楽しんだ。何度もすると慣れ楽しんで遊びが行えるようになる。少し危険だと感じる時はしっかり視野を広げて見守ることで安全に楽しむことが出来た。また個々の成長に配慮しながら体を動かす喜びが感じられるようにしたことで、「もっとしたい」という姿が見られるようになった。遊びへの意欲は個々に違ったがその子どもに合った援助をしながら行うようにしたのでどの子どもも不安になることはなく遊びに参加することが出来た。戸外では開放的になり自分で出来ることや　やってみたいことに挑戦する姿が多く見られ、出来ることはどんどん経験させると良いと感じた。

- たくさんの枯葉の上を歩き音が鳴るとその思いを言葉で表そうとしている。「カサカサしているね」「音がするね」と子どもの気持ちを代弁した。初め保育者を真似て遊ぶ姿が多かったが、興味を持ったことを自分からしようとしたり感じたことをしぐさや単語で保育者に知らせるようになった。見つけたものを「これ何？」と聞き、その問いかけには丁寧に答えるようしたことで満足感にもつながるようにした。

2,　3才の目標・ねらい

- 環境の変化に気づき、興味や関心を持つ
- 体力の増進を図る

ふりかえり

- 種から発芽する様子を身近で感じ出た芽にも違いがあることに気づき、その気づきにも保育者がしっかり耳を傾けるようにした。野菜の生長過程は写真に撮り見えるところに貼るとより生長段階を感じることが出来た。作物や花の生長を観察、発見をみんなでを共有することであまり興味を示さない子どもにも興味が持てるようにした。自分のクラスの観察だけではなく他のクラスの野菜にも目を向け、育てる、触る、収穫して食べる、遊びに使うことでより興味が持てるようにした。

- 藤の実が色づく様子、吹く風が冷たいから心地よいことなど季節の移り変わりを共感した。雨が降ると近くで見るようにし、音やにおいに触れられるようにした。止んだ後は裸足で水たまりに入りバシャバシャと足踏みをし、冷たい、気持ちいい、などの感触を楽しんだ。足踏みをすると水が濁り、黒くなったことにも気づき、保育者に伝える子どももいた。泥遊びでは汚れることや感触に抵抗がある子どもがいたので、何度か遊び

をして少しずつ遊びに誘うなど、無理なく楽しめるように働きかけをした。

- 園外でどんぐりを見つけ、大きさ、模様、色などを観察した。保育者は写真を見ながら子どもに違いや特徴を伝えることでより興味を持たせるようにした。疑問に思ったことを保育者に問いかけることもあり不思議が解決できると納得する様子が見られた。拾ったどんぐりを使ってままごと遊びや製作遊びもし、遊びの中でも大きさ、模様、色などを比べ見せ合ったり交換したりする姿もあり、その様子を見守りながら友だち同士の関わりも広がるように援助した。どんぐりの他、枝や枯葉など自然物は遊びに使えるように子どもの使いやすい場所に置いた。それらを使って数を数えたり、宝探しをしたり、簡単なルールを考えて遊びが楽しめるようにした。考えたことやしたいことを友だちとやってみたことで、その後の発見や遊びのイメージも広がっていた。

- 運動遊びは繰り返し行うことで体を無理なく動かすことにつながり、走るだけではなくジャンプしたり公園の中の斜面を転がったり柔軟な動きが出来るようになった。ルールを取り入れた遊びは遊びの前にしっかり伝えることで理解し、遊びの面白さがわかるようになった。ルールがわかるともっとやりたい、の声があり保育者が促さなくても子ども同士で遊びを始める姿があった。個人差があるので関わりが難しい子どもには保育者が仲立ちするようにし、どの子どもも遊びを存分に楽しむことができた。今後も遊びを提案して子どもの充実感につなげたい。

４，５才の目標・ねらい

- 自発的に活動しようとする
- 状況に適応できるようになる
- 身体的バランス能力を育む

ふりかえり

- 自分の好きな場所、好きな遊びを楽しみながら季節の移り変わりを五感で敏感に感じ、遊びの中での疑問があるとそれについて考えたり試したり、してみたことを声にして友だちや保育者と共感するようになった。
  さつま芋やカブなど作物は生長を楽しむだけではなく、水やりはその日の当番がすることで責任感を持つことにした。毎日観察しみんなで見ることで気づいたことを言い合ったり、他の意見を聞いて新しい発見になることもあった。図鑑は手の届くところに

置くことで疑問についてすぐに調べることができ、理解できるとより興味や探求心が深まるようになった。

- 色水遊びでは色の変化を楽しみ、色の調合でどんな色になるか、色の微妙な配合で色が少しずつ違うことなど、何度も遊ぶことで発見や遊びも広がった。
  公園のどんぐりが緑色から茶色に変化していること、１枚１枚の葉の色づき方が違うことにも関心が見られた。季節の変化を感じるだけではなく自然と関わる中で感じる心や考える心が豊かになっていく姿も実感した。一人一人の気づきは他児にも知らせることで自己肯定感につながるようにもした。子どもたちからの意見にはしっかり耳を傾け、共感し、子どもが自分の意見が言いやすい雰囲気も作るようにした。気づいたことを言葉にする大切さを伝え、そのやり取りによって仲間意識が高まるようにもした。
  また色々な道具を用意することで子どもの工夫があり、遊びが広がり、そこから新たな発見や遊びを行う自発的な姿が見られるようになった。

- 体力面では体幹の弱さを実感することがあったので、目標を持って子ども自身がんばって取組めるようにした。遊びの中には競い合う内容も取り入れ、友だち同士で刺激し合えるようにもした。出来なくてもあきらめずに挑戦する姿を認めることで本人の意欲が保たれ、出来た時上手くいった時は達成感を味わうことが出来た。体を動かすことで気持ちよさを経験したこと、挑戦する大切さを実感したことで、より意欲的に楽しんで体を動かす姿が見られ、その後も様々な運動遊びにも挑戦する姿があった。

- 園外活動では１年を通して同じ場所に行くことで多くの変化や発見を感じることが出来た。活動で発見したことや知っていることがどんどん増え楽しみにつながった。初めは保育者の言葉がけから始まった内容も繰り返しすることで次第に自分から、という取り組み方に変わり、遊びを自分で、自分たちで考え出すようにもなった。

全体の反省

- 年間の取り組みを各クラス主担者同士で話し合いをすることで、他のクラスの取り組みを理解しながら活動を進めることができた。各期の終了には反省会を行うことで次期に生かせるようにした。

- 今年も異年齢児との交流は控えたのでクラス単位での遊びとなった。他のクラスの取り組み内容を理解していても、実際自分のクラスの活動を始めるとそればかりに気がいき、小さいクラスの内容が上回ったりすることもあった。活動を進めながら他のクラスへの興味が保育者自身足りないのではないか、来年度はそのことをしっかり意識したい。

- 天候により遊びを変えたり行えなかったりすることもあったので、やめてしまうのではなく遊び方の工夫や遊びの時間の設定など臨機応変に対応する必要があった。せっかく計画した内容も十分遊びきれていないと感じることがあったので計画段階から起こりえる内容についての予測それについての対応もしっかり考えておく必要があった。遊びが単調だと感じることもあり、遊びに使えるアイテムが十分活用されていないこともあった。

- 遊びの用意は毎回保育者がするのではなく、子どもと一緒にすることでより遊びが楽しめたり、大きいクラスは用意の段階から遊びが始まり、その後の展開は日によって違ったものになったのではないかと思う。子どものやりたいと思う気持ちを引き出すために時には準備段階からを導入部分と考える機会も持ちたい。

- 保育者はしっかり遊びを見守る環境が大切であることを改めて感じた。保育者が意図的に遊びを進めることで子どもを誘導させているのではないか。子どもの可能性を最大限に引き伸ばせるようにしたい。子どもの学びにもしっかりつなげたい。

- 自然物を使った作品を家に持って帰り作品を見てもらうだけではなく子どもと保護者の会話が広がった。園の HP で保護者に発信することで遊びの様子を理解して頂いた。今後も保護者と子どもの成長を共有したい。

- 行事の計画は早くから行い、準備を進めていく段階で色々な状況に対応したり変更することが出来、当日は良い内容で行えることができた。その為にも、来年度も早めの計画と会議でのより多くの意見交換が必要だと考える。保護者参加の行事は状況に応じた参加人数としたが、保護者の理解、協力を頂いた。